

投資事業評価調書（新規）

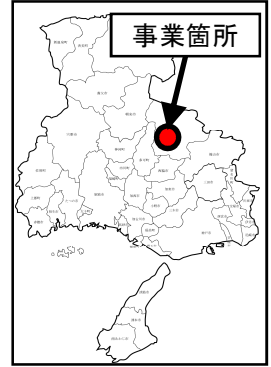
部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 上田 浩嗣 (県道班長 長央 貴晴)	内線	4362 (4376)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
道路事業	道路改築事業 一般県道稲畑柏原線 [稲畑]	丹波市 氷上町稲畑～ 柏原町鴨野	3.8 億円	0.3 億円	平成 30 年度	平成 34 年度
事業目的			事業内容			
<p>本路線は、丹波市氷上町稲畑の国道 175 号から丹波市柏原町柏原の国道 176 号に至る道路であり、旧柏原町市街地や JR 柏原駅と国道 175 号を結び、交通量も多く地域の生活や産業を支える重要な路線である。</p> <p>○円滑な交通の確保 峠部の線形不良、急勾配区間を解消することにより、安全で円滑な交通を確保するとともに、地域の産業の活性化を図る。</p> <p>○安全な自転車・歩行者通行の確保 路肩を整備することにより、自転車・歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>○防災機能の強化 緊急輸送道路である国道 175 号と国道 176 号を結ぶ補完ルートとして位置づけられており、これを整備することで緊急車両や物資輸送車両の円滑な交通を確保する。</p>			<p>【延長】 500m</p> <p>【構造規格】 第 3 種第 3 級</p> <p>【計画幅員】 2 車線 歩道無し 車道 6.0m (全幅 9.0m)</p> <p>【計画交通量】 5,100 台/日 (H42 予測)</p> <p>【現況交通量】 自動車：4,587 台/12h (H29 実測) 自転車：44 台/12h (H29 実測) 歩行者：2 人/12h (H29 実測)</p> <p>【負担割合】 国：55% 県：45%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>① 本区間は峠部であり線形不良（現況最小曲線半径 30m）や急勾配（現況最急勾配 10%）であり、曲線部の拡幅量を確保出来ていない。また、日当たりが悪く、冬季の凍結等により車両や自転車通行者が危険な状態にあり、平成 28 年度に交通事故が 3 件発生している。さらに当該地域には複数の工場・店舗が立地し大型車が往来していることから、線形改良により安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>② 本区間は、柏原高校の通学経路（通学生 22 名）になっている。このため、路肩を拡幅し、自転車・歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>③ 現道周辺には、広域防災拠点（丹波の森公苑）がある。このため、現道の線形改良により、災害時における広域防災拠点等へのアクセス道路としての機能を強化する。</p>					
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>① 費用便益比 B/C=1.6</p> <p>② 線形改良により、交通事故の減少及び歩行者の安全確保が図られる。</p> <p>③ 地元の沼貫地区自治振興会等より要望書が提出されるなど、事業執行環境が整っている。</p>					
(3) 環境適合性	道路法面については、在来種等による植生の復元を図り、周辺環境の保全に配慮する。					
(4) 優先性	地域の防災道路強靱化プランに位置づけられており、災害に強い強靱な県土づくりを進める上でも早期整備が必要である。					

# 位置図

## 道路事業 一般県道 稲畑柏原線〔稲畑〕

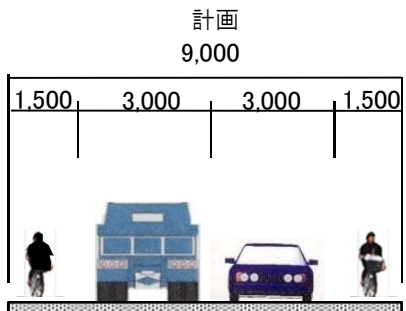
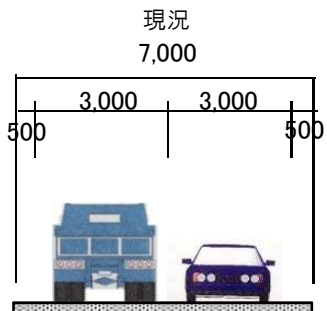
### 凡例

- : 国道
- : 県道
- : 市道
- : 事業区間
- : 高校生通学経路
- : 既設歩道
- : 公共施設、学校等
- : 交通量調査地点



出典: 国土地理院

### 横断図



### 事業概要

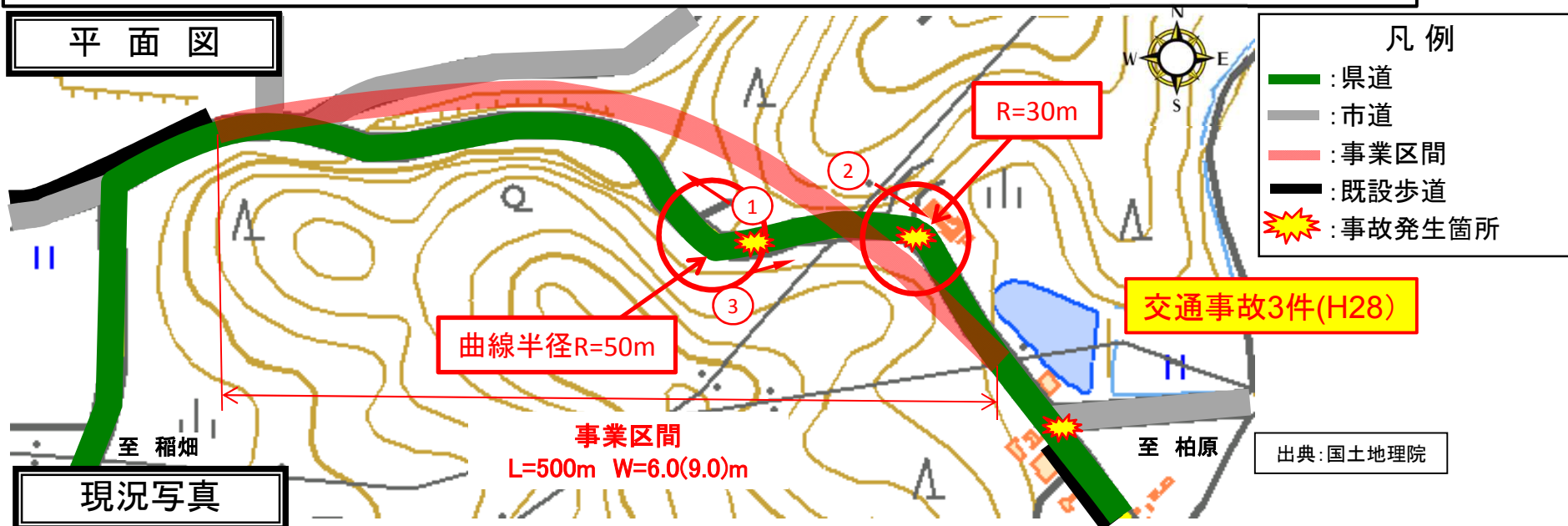
事業区間：丹波市水上町稲畑  
～ 柏原町鴨野  
事業概要：現道拡幅  
延長：500m  
幅員：6.0m (9.0m)  
総事業費：3.8億円  
事業期間：H30～H34

(幅員狭小)  
※R=30m[50m]の箇所、道路構造令の拡幅量2.5m[1.5m]を満足できていない。

# 事業の必要性

- ①峠部の線形不良、急勾配区間を解消し安全で円滑な交通の確保、地域産業の活性化に寄与
- ②路肩を整備することにより、自転車・歩行者の安全な通行を確保
- ③緊急輸送道路間(国道175号と国道176号)を結ぶ補完ルートを整備し、災害時の避難所への物資輸送車両等、緊急車両等の円滑な交通を確保

## 平面図



## 現況写真

①大型車がセンターラインをはみ出し



②大型車が路肩にはみ出し



③路肩狭小、急勾配で通学生が危険



## 1. スケジュール

### 当初計画

工種	年度				
	H30	H31	H32	H33	H34
調査・設計					
用地補償					
道路改良					

## 2. 事業効果について

### (1) 費用対効果

#### ① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365\text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

#### ② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)			総費用	事業費	維持管理費	
					(百万円)	(百万円)	(百万円)	
道路	道路改築事業 一般県道 稲畑柏原線	① 走行時間短縮便益 488		計画交通： 5,100台/日 (H42)	313	293	20	1.6
	② 走行経費減少便益 27							
	③ 交通事故減少便益 1							
	計 516							

### (2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 柏原高校などの通学者の安全性の向上
- ② 円滑で安全な交通経路確保による防災機能の強化

## 道路街路事業の効果

対象事業：道路事業（一）稲畑柏原線

### （１）費用対効果

効果項目（費用対効果の便益内容）	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による便益
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

### （２）費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等		
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 （緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備）	○	緊急輸送道路（補完ルート）の整備による防災機能の強化
		救助・救援活動の支援 （災害時の通行不能や孤立集落の解消）	○	緊急輸送道路（補完ルート）の整備による防災機能の強化、丹波市南西部から新病院へのアクセス性の向上
		減災対策への取組み （二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保）	—	
	平時	救急医療体制の支援	○	丹波市南西部から新病院へのアクセス性の向上
		交通安全対策	○	通過交通の視距改良、路肩拡幅による現道利用者の安全性の向上
②地域の活性化	地域間交流の促進	○	丹波市氷上町稲畑から丹波市柏原町柏原へのアクセス性の向上	
	中心市街地の活性化	—		
	地域産業の活性化	○	国道175号から柏原町北山地区の工場・店舗へのアクセス性の向上による地域産業の支援	
	観光支援	—		
	地域プロジェクト等支援	—		
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	—		
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	—		